

平成25年度 阿賀野市生活科部 活動報告

部長 井浦 育子

1 研究主題

「子どもが生き生きと活動できる教材開発」

2 研究の概要

4月23日(火) 部長・副部長の選出、事業計画の立案

7月18日(木) 実習「動くおもちゃづくり」 会場：水原小学校
理科センター主催の研修会に参加

11月26日(火) 実習「昔のおもちゃを体験しよう」 会場：保田小学校
講師：三市北蒲理科教育センター協力員 星野勝紀様

3 研究の実際

(1) 実習「動くおもちゃづくり」

今回は、理科センターの「動くおもちゃづくり」の研修会に部員で参加した。牛乳パックや紙コップ、割り箸など身近にある材料や、センターで用意していただいた便利な道具・材料を使って、動くおもちゃを作った。実習を通して、教科書にはない作り方のコツや、子どもには難しい過程などに気付くことができた。すぐに実践できる内容だった。



(2) 実習「昔のおもちゃを体験しよう」

前回に引き続き、おもちゃの実習となった。2回目は、作る活動だけでなく昔の遊びを体験する活動も取り入れた実習を行った。

①昔のおもちゃで遊ぼう

コマ回しやけん玉、だるま落としなどの体験活動を行った。コマ回しでは、ひもの巻き方や投げ方、様々な技に挑戦した。星野先生に教えていただくだけでなく、部員同士で教え合うこともでき、最後には部員全員がコマを回すことができるようになった。



②昔のおもちゃを作って遊ぼう

伝統的なおもちゃ「ペタクタ」をつくって遊ぶ活動をした。板返しともいわれるこのおもちゃは、板と紙テープを決められた順序で貼り合わせて作る。おもちゃの仕組みが複雑で工夫されており、かなり苦戦して作った。できあがった時は満足感、達成感でいっぱいになり、子どもたちにもこのような気持ちを味わわせることが大切だと感じた。

4 成果と課題

生活科の「おもちゃづくり」は、子どもたちが自分の発想を豊かに表現すると共に、友達と楽しく遊ぶコミュニケーションを図る絶好の活動である。教師が事前に教材開発を行うことは、子どもが生き生きと活動できることへ繋がるということ、今回の研修で学ぶことができた。支援するための知識や材料・道具の準備が重要である。